

# 養護教諭志望学生がとらえた子どもの健康問題

中村 千景<sup>1)</sup>、佐光 恵子<sup>2)</sup>、青柳 千春<sup>3)</sup>、豊島 幸子<sup>4)</sup>、  
田村 恭子<sup>5)</sup>、丸山 幸恵<sup>6)</sup>、佐藤麻耶子<sup>7)</sup>、時田 詠子<sup>8)</sup>

1) 帝京短期大学生生活科学科、2) 群馬大学医学部保健学科、3) 群馬大学大学院前期課程、  
4) 群馬大学大学院後期課程、5) 阿賀野市立赤坂小学校、6) 上越市立高志小学校  
7) 群馬大学教育学部附属小学校、8) 群馬医療福祉大学社会福祉学部、

Children's Health Issues as Perceived in Junior college students who intended to be Yogo teacher

Chikage NAKAMURA<sup>1)</sup>, Keiko SAKOU<sup>2)</sup>, Chiharu AOYAGI<sup>3)</sup>, Yukiko TOSHIMA<sup>4)</sup>,  
Kyoko TAMURA<sup>5)</sup>, Yukie MARUYAMA<sup>6)</sup>, Mayako SATO<sup>7)</sup>, Eiko TOKITA<sup>8)</sup>

1) Department of Living Science, Teikyo Junior College

2) Gunma University

3) Gunma University Master's Program

4) Gunma University Doctor's Program

5) Agano Municipal Akasaka Elementary School

6) Joetsu Municipal Takashi Elementary School

7) Elementary School Gunma University

8) Gunma University of Health and Welfare

キーワード：子どもの健康問題、養護教諭、健康教育

Key words : Children's health issues , Yogo teacher, Health education

本研究の目的は、養護教諭を目指す学生が子どもの健康問題をどのようにとらえているかを明らかにするとともに、近年、養護教諭に求められている保健教育への積極的な参画に対して、健康教育を推進していくために必要な「子どもの実態をつかむ」ことを学生が習得するために、講義をどのように位置付けたらよいかを検討するための基礎資料を得ることである。

A 短期大学養護教諭コースに在籍する1年生56人を対象に、「健康教育」の講義内で得られた「子どもの健康問題」に関する記述内容を、KJ法を用いて分類・分析した。

結果、「子どものからだと発育にかかわる問題」、「子どもの生活にかかわる問題」、「子どものこころと発達にかかわる問題」、「子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題」、「子どもを取り巻く学校（教育）環境にかかわる問題」、「子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題」の6つのカテゴリーに分類できた。養護教諭を目指す学生が、子どもの健康問題を多岐にわたる視点でとらえていることが明らかになった。

## 1. はじめに

近年の都市化や情報化などの社会の変化や生活様式の変化は、子どもの遊びや身体活動の不足、偏った食生活、ストレスの増大、人間関係の希薄化などをもたらし、子どもの心身の健全な発育・発達に影響を与えている<sup>1)</sup>。

平成20年1月の中央教育審議会答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策において<sup>2)</sup>」には、多様化・深刻化している子どもの現代的な健康課

題を解決するための取り組みとして、「2. 学校保健に関する学校内の体制の充実」として次のようにあげている。「(1)養護教諭 ⑤深刻化する子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、学級担任や教科担任等と連携し、養護教諭の有する知識や技能などの専門性を保健教育に活用することがより求められていることから、学級活動などにおける保健指導はもとより専門性を生かし、ティーム・ティーチングや兼職発令を受け保健の領域にかかわる授業を行うなど保健学習への参画が増えており、養護教諭の保健教育に果たす役割が

増している。そのため、保健教育の充実や子どもの現代的な健康課題に対応した看護学の履修内容の検討を行うなど、教員養成段階における教育を充実する必要がある。<sup>3)</sup>

また、2011年10月に埼玉県坂戸市において行われた、「日本養護教諭教育学会第19回学術集会」のリーシンポジウム「これからの養成カリキュラム—私はこう考える—」の中で、「アフターケアではなく、予防できる力を持つ養護教諭」になるためには「子どもの実態を把握→健康課題→教育課題→健康教育」と、健康課題に対して保健学習や保健指導にかかわる授業力の向上が欠かせないと指摘している<sup>4)</sup>。続けて行われた「養護教諭の質を養成・採用時・現職研修においてどう担保するか<sup>5)</sup>」では、養成大学に求めるものとして、①専門教養の習得、②確かな技術の習得、③研ぎ澄まされた感性、④企画調整・コーディネート力、の4点の内容があげられた。

吾妻ら<sup>6)</sup>は2003年9月、将来教職を目指す学生を対象として行った児童生徒の保健問題に対する知識と認識の実態調査の結果、児童生徒の疾患について十分な知識があるとは言い難く、さらに、保健体育の教員を目指す学生の知識の希薄さに疑問を感じたとともに正しい知識が必要であると報告している。そしてさらに、一般教員を目指す学生も、学校保健や保健問題について、学問毎に段階を踏んだ学習が必要であると提言している。

上山<sup>7)</sup>は、看護学生を対象に行った調査で、看護学生は子どもの健康について健康の三側面からとらえているが、健康という言葉から身体面が中心で精神面、社会面が少ない傾向であると述べている。

研究者らが2007年に他大学の幼児教育専攻学生40名に対し行った調査<sup>8)</sup>では、子どもを取り巻く親や地域・社会などに対する記述が中心で、身体面に関する記述が少なく、前述の上山<sup>7)</sup>の調査結果とは傾向の違いがみられた。

同様に、2008年に他大学の保健体育専攻学生20名に対し行った調査<sup>9)</sup>では、子どもを取り巻く心身の健康問題について多岐にわたりとらえられてはいたものの、今日的な課題や喫緊の健康課題に対する記述は少ない結果となった。

以上のことから、養護教諭に求められている健康教育（保健教育）を推進できる養護教諭を養成するため、研究者の担当する「健康教育」の講義において「健康教育につなげる」実践の演習として「子どもの実態をつかむ」ことを講義の一部に位置付け、現段階で、養護教諭を目指す学生が子どもの健康問題をどのようにとらえているのかを調査し、講義をどのように進めていくべきなのかを検討したいと

考えた。また、前述した「幼児教育専攻学生：40名（2007年調査）<sup>8)</sup>」、「保健体育専攻学生：20名（2008年調査）<sup>9)</sup>」を対象にした同様の研究調査結果と比較検討したい。

## 2. 目的

養護教諭を目指す学生が子どもの健康問題をどのようにとらえているかを明らかにするとともに、近年、養護教諭に求められている保健教育への積極的な参画に対して、健康教育を推進していくために必要な「子どもの実態をつかむ」ことを学生が習得するために、講義をどのように位置付けたらよいかを検討するための基礎資料を得ることである。

また、結果を講義内に学生へフィードバックし、講義内容の充実を図ることとした。

## 3. 研究方法

### (1)対象

A 短期大学養護教諭コースの1年生56名。

### (2)時期

平成23年9月15日。

### (3)方法

研究者の担当する、養護教諭免許取得の必修科目である「健康教育（1年生後期開講）」の授業の一環として、初回の授業の中で実施した。学生には「小中学生の子どもの健康問題を、思いっただけ書いてみましょう」と書かれたA4のプリントを配布し、10分程度の時間を設け、①周りとは相談しないこと、②なるべく箇条書きに記述すること、③長い文章でしか書けない（説明できない）場合は文章でもよいこと、を指示し、その他の質問には応じず記述させた。

15コマの講義の中で、実際に「体育科（保健領域）学習指導案」と「保健指導案」を作成する演習を控えているため、研究者自身が「子どもの実態を教育につなげる」ことを指導することと、他の学生の意見を共有し、自分自身が記述した内容とともに結果をフィードバックするため、記述プリントに学籍番号と氏名を記述させた。

### (4)分析の方法と手順

学生が記述した内容をKJ法<sup>10)</sup>を利用し、整理・分類した。長い文章で記述されたものに関しては意味が変わらないように簡潔な文章で1文章を1カードに記述し直した。意味内容の類似性による分類・命名を繰り返し、コアカテゴリーを抽出した。分類には以下の記号を用いた。

【 】：類似したカテゴリーを集めて分類し命名したコアカテゴリー

[ ]：類似したサブカテゴリーを集めて分類し命名したカテゴリー

< >：類似した記述内容を集めて分類したサブカテゴリー

「 」：具体的な記述内容

分析の対象となったカードは、全部で431枚であった。学生一人当たり平均して約7.7枚の健康問題を記述した。

#### (5) 倫理的配慮

実施にあたり、対象者に対して、記名式であることは後の授業でフィードバックをするためであることや、記述内容が成績評価には無関係であること、処理上は個人を特定しないデータとして取り扱うことを説明した。また、棄権することもできることや研究協力によって不利益が生じないことを口頭で説明し、記述内容は、個人を特定しないデータとして管理した。

## 4. 結果

### (1)対象者の属性

対象者56名（男子：4名、女子：52名）は、高校卒業後ストレートで入学した学生が73.2%、他大学・専門学校等卒業・中退者14.3%、社会人経験者12.5%であり、平均年齢は20.2歳である。

A短期大学入学後の半年間で、約6割の学生が小学校への学習支援ボランティアへの参加や、地域のスポーツ団体などでのアルバイトやボランティア活動を行っている。また、9月初旬には養護教諭免許取得の必修科目である「養護演習Ⅰ」の授業の一環で、「一日教育参加」として、全員が近隣小学校で現場での教育を体験している。そう言ったことから、調査日に近い時期に学生全員が小学生と触れ合う経験をしている。

### (2)子どもを取り巻く健康問題

56名の養護教諭を目指す学生がとらえた子どもの健康問題について、多かった記述内容を見ていくと、記述件数が多い順に、「運動不足（24件）」、「むし歯（24件）」、「視力低下（18件）」、「夜更かし（18件）」、「朝食を食べてこない（16件）」、「やせ・肥満（12件）」、「偏食（12件）」、「睡眠不足（11件）」、「好き嫌いが多い（11件）」等が上位を占めた。

KJ法を利用し分類・分析した結果、学生のとらえた子どもの健康問題は、表1に示すように、【子どものからだど発育にかかわる問題（181件）】、【子どもの生活にかかわる問題（183件）】、【子どものこころと発達にかかわる問題（43件）】、【子どもを取り巻く

家庭環境にかかわる問題（10件）】、【子どもを取り巻く学校（教育）環境にかかわる問題（12件）】、【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題（2件）】の6つのコアカテゴリーに分類できた。以下、コアカテゴリー別に記述していく。

表1 学生がとらえた子どもの健康問題の分類

		(n=431)	
	コアカテゴリー	件数	%
I	子どものからだど発育にかかわる問題	181	42.00
II	子どもの生活にかかわる問題	183	42.46
III	子どものこころと発達にかかわる問題	43	9.98
IV	子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題	10	2.32
V	子どもを取り巻く学校(教育)環境にかかわる問題	12	2.78
VI	子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題	2	0.46
	計	431	100.00

### I. 子どものからだど発育にかかわる問題（表2）

【子どものからだど発育にかかわる問題】では、[体力]、[疾病]の2つのカテゴリーが抽出され、181件（42.00%）の健康問題が示された。

[体力]のカテゴリーでは、<運動能力>、<運動機能>、<体力低下>、<運動不足>、<身体虚弱>、<外遊び>の6つのサブカテゴリーで構成された。具体的な記述内容として「運動不足（24件）」、「外で遊ぶ子の減少（8件）」、「運動能力の低下（4件）」などがみられた。

[疾病]のカテゴリーでは、<体型>、<歯・口腔・顎>、<むし歯>、<耳>、<感染症>、<視力>、<アレルギー>、<生活習慣病>、<扁平足>、<便秘>、<姿勢>の11のサブカテゴリーで構成された。具体的な記述内容としては、「むし歯（24件）」、「視力低下（18件）」、「やせ・肥満（12件）」、「生活習慣病（8件）」などがみられた。

### II. 子どもの生活にかかわる問題（表3）

【子どもの生活にかかわる問題】では、[食生活]、[生活習慣]の2つのカテゴリーが抽出され、183件（42.46%）の健康問題が示された。

[食生活]のカテゴリーでは、<偏食>、<欠食>、<食事内容>、<コ食>、<習慣>、<栄養バランス>、<ダイエット>の7つのサブカテゴリーで構成された。具体的な記述内容として「朝食を食べてこない（16件）」、「偏食（12件）」、「好き嫌いが多い（11件）」、「ダイエット（6件）」、「栄養バランスの偏り（4件）」などがみられた。

[生活習慣]のカテゴリーでは、<就寝時間>、<起床の様子>、<睡眠時間>、<生活リズム>、<生活習慣>、<メディア依存>の6つのサブカテゴリーで構成された。具体的な記述内容として「夜更かし（18件）」、「睡眠不足（11件）」、「遅寝・遅起き（4件）」、「ゲームや携帯電話への依存（3件）」などがみられた。

表2 コアカテゴリーⅠ【子どものからだと発育にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容	n	
体力	運動能力	運動能力の低下	4	
		運動機能低下	1	
	運動機能	しゃがんだ状態を維持できない	1	
		体力低下	2	
		体力不足	1	
	体力低下	体力のある子とない子の差が大きい	1	
		運動不足	24	
		ゲームや携帯を持っている子が多く、外で遊ぶことが少ないため運動不足	1	
	運動不足	交通機関の発達による運動不足	1	
		運動症	1	
		運動が習慣化されていない	1	
		身体虚弱	2	
		すぐ具合が悪くなり健康的でない	1	
	身体虚弱	身体虚弱	1	
		塾や習い事をしている子どもが多く、長期休み明けなど体調を崩す子がいる	1	
骨折しやすい		1		
熱中症		1		
外遊び		8		
外で遊ぶ子の減少		1		
熱通いのため外で遊べない		1		
疾病		体型	やせ・肥満	12
			肥満	9
		やせ過ぎ	低身長	4
	低体重		2	
	普通の体型をした子どもがいない		1	
	標準体型の子が減ってきた(健康な子が減ってきた)	標準体型の子が減ってきた(健康な子が減ってきた)	1	
		歯・口腔・顎	2	
		顎が弱い	1	
		歯並びが悪い	1	
		歯肉炎	1	
噛み合わせが悪い	噛み合わせが悪い	1		
	歯	1		
むし歯	むし歯	24		
	むし歯の多い子の増加	5		
耳	イヤホンをつけるため耳が悪い	1		
	感染症	1		
感染症	インフルエンザ(感染症)	1		
	視力	視力低下	18	
低視力		2		
ゲーム・携帯による視力低下		2		
遠視・近視		1		
視力低下が早くなっている		1		
暗い部屋でゲームをして視力低下	暗い部屋でゲームをして視力低下	1		
	アレルギー	アレルギー	4	
アレルギーを持つ子が多い		1		
アレルギー	アレルギーを持つ子の増加	1		
	ぜんそく	1		
生活習慣病	生活習慣病	8		
	成人病予備軍	1		
糖尿病	糖尿病	1		
	扁平足	扁平足	1	
土踏まずの減少		1		
土踏まずの形	土踏まずの形	1		
	便秘	排便(学校で排便できない)	2	
便秘		1		
姿勢	姿勢	3		
	姿勢が悪い	3		
	姿勢が悪い(授業中・食事・立っている時)	1		
	猫背	1		
	背筋	1		
	足を組む	1		
	肘をつきながら授業を受ける	1		
	椅子にもたれかかりながら授業を受ける	1		

181

Ⅲ. 子どものこころと発達にかかわる問題 (表4)

【子どものこころと発達にかかわる問題】では、[こころ]、[精神疾患]、[社会性]、[低年齢化]の4つのカテゴリーが抽出され、43件(9.98%)の健康問題が示された。

[こころ]のカテゴリーでは、<無気力>、<不適応>、<犯罪>の3つのサブカテゴリーで構成された。具体的な記述内容として、「いじめ(8件)」、「不

表3 コアカテゴリーⅡ【子どもの生活にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容	n
食生活	偏食	偏食	12
		好き嫌が多い	11
	偏った食事	野菜が苦手	6
		好きなものを食べる	2
		食生活の偏り	1
	朝食	朝食を食べてこない	16
		朝食抜き	3
		三食を高学年ころからとる子が少ない	1
	食事内容	三食食べない	1
		食生活の乱れ	3
		ファーストフード、コンビニ弁当等、食べる機会が多い	3
	ファーストフードやファミレスが原因で肥満の子が増加	ファーストフードやファミレスが原因で肥満の子が増加	1
		スナック菓子・カップラーメンばかり食べる	1
		お菓子やジュースの食べ過ぎ	1
		不規則な食事	1
食事の内容		1	
食の欧米化		1	
食事バランス		1	
スローフード離れ(親が原因)		1	
朝食		3つの朝食	2
		孤食	2
個食	個食	1	
	固食	1	
習慣	噛まない	1	
	顎が弱って固いものが食べられない	1	
	ばかり食べる(三角食べができていない)	1	
栄養バランス	栄養バランスの偏り	4	
	栄養バランスが悪い	2	
カルシウム不足	カルシウム不足	1	
	ダイエット	ダイエット	6
ダイエットや体重をすごく気にしている		1	
成長期にもかかわらずダイエット		1	
ダイエット志向		1	
女の子に多いやせ願望		1	
無理なダイエット		1	
ダイエットによる栄養失調	1		
ダイエットのためにきちんと食事をとらない	ダイエットのためにきちんと食事をとらない	1	
	摂食障害	1	
過剰なダイエットによる過食症・拒食症	1		
生活習慣	就寝時間	夜更かし	18
		就寝時間が遅い	4
	夜型の生活	夜更かしによる生活の乱れ	3
		遅くまで眠らない	1
		寝る時間	1
起床の様子	朝寝坊	1	
	朝起きられない	1	
	お日様と一緒に寝起きしない	1	
	寝起きが悪い	1	
睡眠時間	睡眠不足	11	
	寝不足	5	
	睡眠時間	3	
	睡眠の問題	2	
	睡眠時間が少ない	1	
睡眠の質(ホルモンバランスの崩れ)	睡眠の質(ホルモンバランスの崩れ)	1	
	睡眠	1	
生活リズム	遅寝・遅起き	4	
	不規則な生活	2	
	生活リズムの乱れ	2	
	早寝早起きができる子と出来ない子がいる	2	
	早寝早起きができない	1	
	生活リズムが確立されていない	1	
授業中に寝る	授業中に寝る	1	
	生活習慣	歯みがき	3
生活習慣		1	
歯磨きが不十分		1	
メディア依存	歯の磨き方、回数	1	
	テレビやテレビゲームの見過ぎ	3	
	ゲームや携帯電話への依存	3	
	ゲームばかりしている	1	
	テレビやゲームの画面の見過ぎ	1	
ゲーム脳	1		

183

登校(3件)」などがみられた。

[精神疾患]のカテゴリーでは、<発達障害>、<

こころの健康>、[社会性]の категорияでは、<情緒の未発達>、<コミュニケーション>、[低年齢化]の категорияでは、<性>、<喫煙・飲酒>のそれぞれ2つずつのサブカテゴリーで構成された。

表4 コアカテゴリーⅢ【子どものこころと発達にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	N:サブカテゴリー数		n:記述件数
		「	」	
こころ	無気力			1
N:3				
n:14	不適応	大人たちに抑圧されている		8
		いじめ		3
		不登校		1
	犯罪	殺人		1
精神疾患	発達障害	ADHD		1
N:2		授業中席についていけない		1
n:8	こころの健康	精神的なこと		1
		心の健康(精神保健)		1
		チェック		1
		ストレス		3
社会性	情緒の未発達	キレやすい子の増加		2
N:2		きちんとした発達過程		1
n:10		集中力がない		1
	コミュニケーション	携帯のメールばかりで気持ちを伝えるのが下手		1
		コミュニケーション		1
		自己中心的な性格		1
		人と関わるのが苦手な子が多い		1
		自分勝手な子が増えている		1
		引きこもり		1
低年齢化	性	性の問題		2
N:2		男女の性関係		1
n:11		若い人の妊娠		1
	喫煙・飲酒	飲酒		3
		喫煙		3
		喫煙(副流煙)		1
				43

#### Ⅳ. 子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題(表5)

【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】では、[親子関係]の категорияが抽出され、10件(2.32%)の健康問題が示された。

<共働き>、<虐待>、<教育力低下>の3つのサブカテゴリーで構成され、「虐待(5件)」、「育児放棄(2件)」などの記述がみられたが、他の категорияと比較をすると件数が少なかった。

表5 コアカテゴリーⅣ【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	N:サブカテゴリー数		n:記述件数
		「	」	
親子関係	共働き	親の共働き		1
N:3				
n:10	虐待	虐待		5
		育児放棄(身なり、爪を切らない、服が毎日同じ、お風呂に入らない)		2
	教育力低下	子どもに対する保護者(大人)の教育不足		1
		過保護・放任		1
				10

#### Ⅴ. 子どもを取り巻く学校(教育)環境にかかわる問題(表6)

【子どもを取り巻く学校(教育)環境にかかわる問題】では、[学力低下]、[教育の必要性]の categoriaが抽出され、12件(2.78%)の健康問題が示された。

[学力低下]の categoriaでは、<学力低下>、<活字離れ>の2つのサブカテゴリーで構成され、[教育の必要性]の categoriaでは<保健指導>のサブカテ

ゴリーがあげられた。

前述の【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】と同様に、他の categoriaと比較して件数は少なかった。

表6 コアカテゴリーⅤ【子どもを取り巻く学校(教育)環境にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	N:サブカテゴリー数		n:記述件数
		「	」	
学力低下	学力低下	学習能力の低下		1
N:2		ゆとり教育		1
n:3	活字離れ	本を読まない		1
教育の必要性	保健指導	手洗いうがい		4
N:1		歯みがき指導		2
n:9		間違ったダイエット知識		1
		正しい性知識がない(妊娠・避妊、性病、異性への理解)		1
		性教育(性感染症)		1
				12

#### Ⅵ. 子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題(表7)

【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】では、[自然環境]の categoriaが抽出され、2件(0.46%)の<放射線>に関する健康問題が示された。

表7 コアカテゴリーⅥ【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】

カテゴリー	サブカテゴリー	N:サブカテゴリー数		n:記述件数
		「	」	
自然環境	放射線	放射線		1
N:1		放射線の影響		1
n:2				2

## 5. 考 察

今回、養護教諭を目指す学生がとらえた子どもの健康問題は、【子どものからだと発達にかかわる問題】、【子どもの生活にかかわる問題】、【子どものこころと発達にかかわる問題】、【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く学校(教育)環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】の6つの categoriaに分類された。深刻化する現代的な子どもの健康課題に対して、子どもの実態把握から健康課題を見出し、保健学習や保健指導につなげることが養護教諭に求められているが、養護教諭を目指す学生が、入学後半年ながらも子どもの健康問題を多岐にわたる視点でとらえていた。

コアカテゴリー別にみていくと、【子どものからだと発達にかかわる問題】では、身体活動の不足の問題や、肥満、アレルギー、姿勢に至るまで、幅広くとらえられていることが分かった。これまでの2つの調査<sup>8) 9)</sup>では記述が見られなかった<姿勢>には12件の記述がみられ、ボランティアや教育参加などで子どもと接し目にした様子をとらえたのではないかと考えられる。

【子どもの生活にかかわる問題】では、学生は子どもの食事の内容や食事形態の変化、生活リズムの変化をとらえられており、ダイエットやメディア依存の弊害まで認識していることが分かった。

【子どものこころと発達にかかわる問題】では、人間関係の希薄化にみられるコミュニケーション能力の問題や、性や喫煙・飲酒の低年齢化の問題はとらえられていたものの、学校現場においてその対応が喫緊の課題である、発達障害など特別な配慮を要する子どもたちの問題に対する記述があまりみられなかった。これまでの2つの調査<sup>8) 9)</sup>では、発達障害の病名の記述や、言葉遣いや挨拶などの社会性にかかわる記述、「夢を持ってない」などの記述がみられた。

【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】では、虐待や家庭の教育力低下の問題はとらえられていたものの、これまでの幼児教育専攻学生対象の調査<sup>8)</sup>で記述がみられた、複雑で多様な家庭環境や、育児不安、親子関係の希薄化、近所付き合いの希薄化などの記述はみられなかった。幼稚園教諭・保育士を目指す学生の視点は、家庭環境の実態や親の精神面まで幅広くとらえられていた。

【子どもを取り巻く学校（教育）環境にかかわる問題】では、他のカテゴリであげられた、むし歯の多さやダイエットにかかわる問題、性に関する問題などの健康問題に対する保健指導の必要性がみられた。これまでの2つの調査<sup>8) 9)</sup>では、早期教育、学級崩壊、教師の信頼失墜、学力重視の弊害などの記述がみられたが、今回の調査では記述はみられなかった。

【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】では、2011年3月11日におきた東日本大震災による、原子力発電所の放射能問題に対し、安全性や健康被害を懸念している様子がかがえた。幼児教育専攻学生への調査<sup>8)</sup>で記述がみられた、温暖化やオゾン層破壊などの環境破壊や、子どもを取り巻く犯罪、格差社会、少子化と言った問題はあげられなかった。

これらから、養護教諭を目指す学生がとらえた子どもの健康問題が、①入学後半年間の「養護概説」、「学校保健Ⅰ」、「精神保健」、「免疫学」と言った講義から得た知識、②入学後早期のボランティア体験や、講義内に位置付けられた教育参加での教育現場の体験、③テレビや新聞報道などメディアの情報、の3点から子どもの健康問題として関連付けてとらえ、想起されていると考えられる。

研究者らが、他大学の幼児教育専攻学生（2年生20名・3年生20名の計40名、n=593）に対して5年前に行った同様の調査結果<sup>8)</sup>では、【地域・社会環境にかかわる問題】が一番多く（n=169、28.50%）、次いで【親・家庭にかかわる問題】（n=139、

23.44%）、【こころと発達障害にかかわる問題】（n=80、13.49%）であり、【地域・社会環境にかかわる問題】と【親・家庭にかかわる問題】のコアカテゴリで全体の51.94%を占めていた。学生一人当たりの平均記述枚数は14.8枚と、今回の調査の約2倍に当たる枚数を記述していたことになる。記述枚数の多さやコアカテゴリの傾向の違いは、教育実習や保育実習等での実践的な場面での学びがこれらの問題意識に反映しているのかが調査内容からは読み取ることができないが、他の調査結果と比較をすると、3年生の学生も調査対象にいることから、調査までの講義や実習等での学びが反映しているものと考えられる。また、他大学の保健体育専攻学生（3年生20名、n=150）に対して4年前に行った調査<sup>9)</sup>では、【からだと発育】が一番多く（n=50、33.3%）、次いで【こころと発達】（n=48、32.0%）、【生活】（n=40、26.7%）であり、学生一人当たりの記述枚数は7.5枚であった。

今回の調査を含め研究者らが行ってきた3つの調査を比較すると、養護教諭を目指す学生が、子どもの健康問題として、疾病や食生活、生活習慣などの問題を記述した【子どものからだと発育にかかわる問題】、【子どもの生活にかかわる問題】の2つのコアカテゴリで全体の84.46%を占めており、多くとらえられていた。しかし、それと同時に、精神面や社会性、家庭環境や地域、社会環境に関して記述した【子どものこころと発達にかかわる問題】、【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く学校（教育）環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】に対して想起することができにくかったと言え、想起できなかった内容をどのように教育していくかが課題となった。これは、前述の看護学生に対する調査結果<sup>7)</sup>と同様の結果となった。上山<sup>7)</sup>が指摘する「健康という言葉から身体面が中心で精神面、社会面が少ない傾向である」と同様に、学生が健康問題を表面上でとらえ、その問題の背景までイメージするに至らなかったのではないかと考えた。

中下ら<sup>11)</sup>は、養護教諭養成課程の臨床実習に際し、本実習（3年生対象）の1年前に早期体験学習を試み、本実習の充実に向けた早期体験学習の学生の学びを、「学生は3年次の臨床実習の目標である医療機関での基礎的看護能力や行動連携能力等の習得に向けて実習をイメージし、自身の課題を認識して望むことができると考えられる。」と報告している。また、「学生は医療現場を学校現場に置き換え、養護教諭を目指す学生として新たな目標や必要な学習課題を認識することができたと考えられる。」と述べており、養護力

リキュラムの中に、A 短期大学の「一日教育参加」のように、実習や卒業後の就職先である学校現場を早い段階で体験することにより、その後の教育効果をあげることができるのではないかと考えられる。

また、前述したように、これまでの講義から得た知識が記述内容に反映されていると考えると、吾妻ら<sup>6)</sup>が提言する「学問毎に段階を踏んだ学習が必要である」を受け止め、最新で正しい知識を根拠に基づいて、段階を踏んだ講義を学生へ保障していかなければならない。

## 6. 結 論

養護教諭を目指す学生がとらえた子どもの健康問題についての分析結果から、以下のことが明らかになった。

子どもの健康問題について、子どものからだと発育にかかわる問題】、【子どもの生活にかかわる問題】、【子どものこころと発達にかかわる問題】、【子どもを取り巻く家庭環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く学校（教育）環境にかかわる問題】、【子どもを取り巻く社会環境にかかわる問題】の6つのカテゴリーに分類できた。養護教諭を目指す学生が、子どもの健康問題を多岐にわたる視点でとらえており、これまで半年間の講義から得た知識や、ボランティアや実習を通した子ども達とのかかわり、メディアからの情報などを、子どもの健康問題として関連付けてとらえていることが分かった。しかしながら、精神面や社会性、家庭環境や社会環境に関してとらえ方が弱かった。

養護教諭を目指す学生が、子どもの健康問題として子どもの実態を的確にとらえ、養護教諭に求められている「健康教育」につなげ、適切に対応できる力量を養成段階で習得するためには、学校現場をイメージできる早期体験学習や学校現場でのボランティア体験などが有効であると考えられた。また、養護教諭を目指す学生が、子ども達の健康問題を正しく認識し、それらの健康問題に対して幅広い視点でとらえ、適切な対応ができるようにするためには、常に最新の情報を取り入れ、信頼できる情報やデータを活用・比較し、目の前にいる子ども達の健康問題がどこにあるのかを見い出せるような、講義構成や内容の精選が養成大学に必要なのだと思われる。

今回の研究結果をもとに、講義内で「子どもの健康問題」の記述内容を学生にフィードバックし、自分自身では想起できなかった健康問題を知り、健康教育を推進できる養護教諭を養成できるよう役立てていきたい。

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、ご協力をいただきましたA 短期大学養護教諭コースの学生みなさまに、深く感謝いたします。

## 引用・参考文献

- 1) 財団法人日本学校保健会「新学習指導要領に基づくこれからの小学校保健学習」2009
- 2) 学校保健・安全実務研究会「新訂版学校保健実務必携」第一法規 p243 2009
- 3) 前掲2) pp245-246
- 4) 日本養護教諭教育学会「第19回学術集会抄録集」pp33-40 2011
- 5) 前掲4) pp43-50
- 6) 吾妻あすか、加藤英世、金森麻記他「教員養成大学学生がもつ児童・生徒の保健問題への認識と知識」学校保健研究 Vol.47 pp316-317 2005
- 7) 上山和子「看護学生の子どもの健康に対する認識（1）一小児看護学実習終了後の調査」新見公立短期大学紀要 Vol.22 pp73-80 2001
- 8) 佐光恵子、伊豆麻子、田村恭子他「教員養成大学学部生がとらえた子どもの健康問題（第1報）」上越教育大学研究紀要 Vol.27 pp245-251 2008
- 9) 佐光恵子、市川真知子、中村千景他「教員養成学部保健体育専攻学生がとらえた子どもの健康問題」群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 Vol.46 pp97-104 2011
- 10) 川喜田次郎「問題解決学 KJ 法ワークブック」講談社 1970
- 11) 中下富子、関由起子、岩井法子「教育学部養護教諭養成課程における臨床実習に向けた早期体験学習での学生の学び」学校保健研究 Vol.53 Suppl. 第58回日本学校保健学会講演集 p193 2011